

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.43

2020年7月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail: hginfo@hofg.org
https://www.hofg.org/



ブノンペン都 公開授業 (2/14)



BTB 州プレアモニボン中学校バスケットボールの授業 (1/15)



SVR 州 プロソウト中学校バタンの授業 (1/22)

【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国中学校体育科教育の普及

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

ハート・オブ・ゴールド（以下、HG）は、カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）と協力して中学校体育科の指導書を作成してきました。2019年9月に教育省大臣により承認され、事業は普及の時期に移行しています。

2020年1月から3月の間、ブノンペン都で1回、バタンバン州とスヴァイリエン州で各2回のモニタリングを実施しました。また、ブノンペン都では、公開授業（対象3校の教員が集まり各学校の体育の授業を観察し、検討するワークショップ）を1回実施しました。今までのモニタリングでは、教員が授業を実施した後にアドバイスをを行うという体制でしたが、それでは教員が次の授業に反映させるまで時間が空いてしまい、授業改善がなかなか進まない状況でした。そこで、教員の合意の上、授業の途中で介入しアドバイスをを行い、その場で教え方に工夫をしてもらうようにしました。教員は、生徒がより目的に沿って学べるよう教えたり、生徒の運動時間をより多く確保できるように授業を変更したりすることを体験をもって学ぶことができました。本事業で独自に開発

した授業評価シートでは、モデル1都2州の体育教員の新しい体育に対する理解度は、100%のうち全体で58.21%となっており、プロジェクト目標に近い値になってきています。



SVR 州バサック中学校マット運動の授業 (3/2)

しかし、3月16日に新型コロナウイルスの影響で、教育省が全ての都・州の学校の閉鎖を発表しました。これにより生徒が体育を学べなくなり、教員も新しい体育を教えることができず、事業としてもモニタリングに行けない状況となりました。

HGと教育省との緊急協議により、現状では教員が教えることが難しい3領域（フィジカルフィットネス、リズム運動、器械体操）の参考書の作成、体育用語を統一するための辞書の作成、そして「態度、知識、技能、

協調性」を教えることをモデルとして示すことと合わせて、家においても生徒が体育を学べるようにするリズム運動のオンライン授業コンテンツの作成に活動を変更することとしました。

現在は、日本とカンボジアでオンラインによる協議を重ねながら、活動を進めています。教育省は今年度末8月までの学校閉鎖を決め、2020年11月から新学期を開始することを予定しています。学校再開後には、体育の教員が新しい体育をスムーズに始めることができるための支援をしていきたいと考えています。

今後は、3領域の参考書、体育用語辞書、オンライン授業を完成させ、8月には教育省担当官をナショナルトレーナーに認定するための評価試験を計画しています。また、本事業が9月に終了するため、新しい体育の普及を教育省の政策として実施していくための提言書を教育省大臣へ提出する予定です。事業の終盤で、計画を大きく変更しなければいけない状況になりましたが、新しい体育がカンボジアに着実に根付くような活動を継続していきたいと考えています。

カンボジア体育科教育活動及び環境整備支援マップ

プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

ハート・オブ・ゴールドは、2006年より JICA 草の根技術協力支援事業（以下、JICA 草の根）としてカンボジアの小学校体育科教育普及支援を10年にわたり実施してきました。

まずは体育科指導要領・指導書の作成を行い、2009年からシェムリアップ、バタンバン、クラチェ、シアヌークビル、スヴァイリエンを地域拠点5州（マップ濃緑）とし、各州3～4校の小学校及び教員養成校を対象に、新しい体育の導入を始めました。2013年に新たに10州（マップ薄緑）を加え、小学校全33校、教員養成校全13校に普及活動を拡大。カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）より小学校29校、教員養成校10校が、指導要領・指導書に沿った新体育実施に取り組む研究指定校として認定されました。その後も教育省は独

自で地方教育局に働きかけ、ワークショップを実施し、普及を進めています。

2016年からは中学校体育科教育支援に着手し、プノンペン、スヴァイリエン、バタンバンを拠点3州として、小学校と同様に普及に取り組んでいます。そして、2019年からカンボジア初となる体育大学の体育科4年制コース設立支援を行っています。

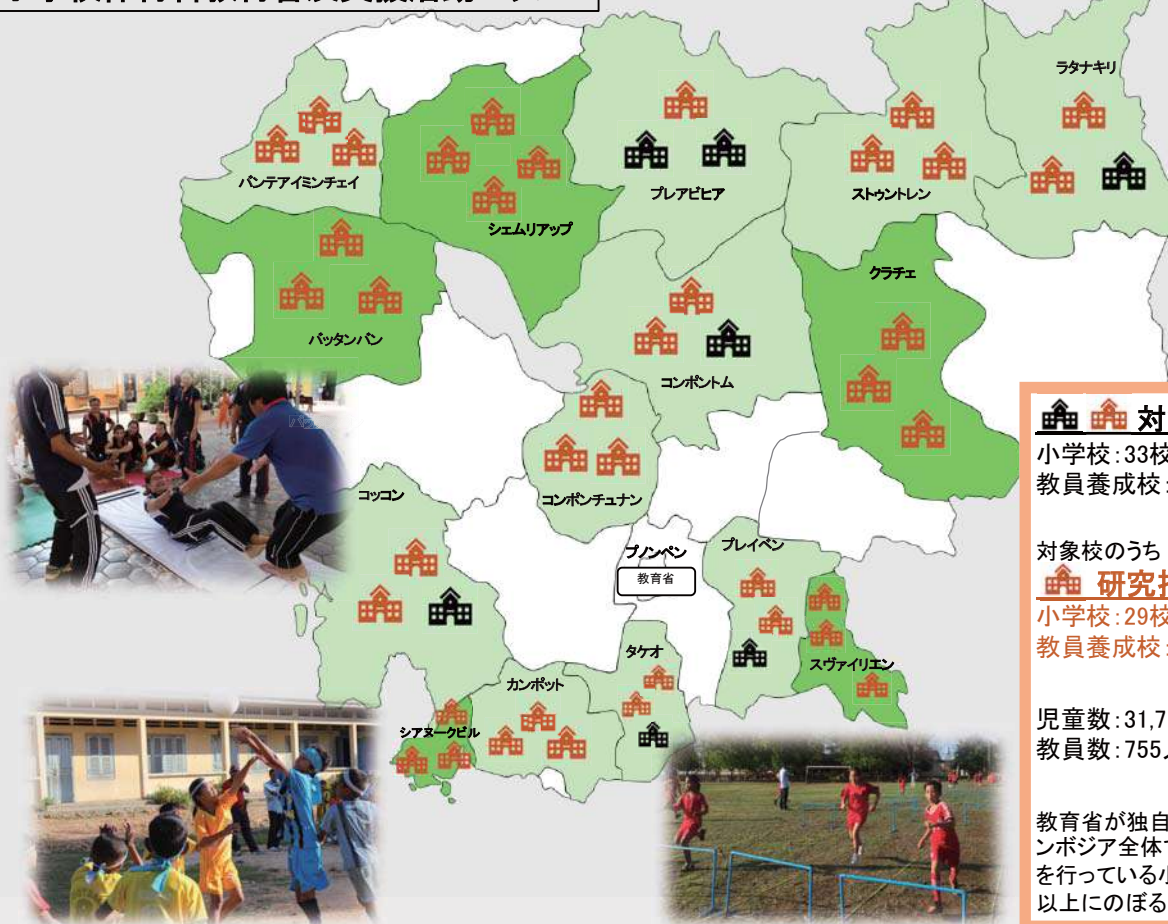
教育省担当官が日本で初めて運動会を見たことをきっかけに、2013年にシェムリアップ州で教育省主導として初の運動会を開催しました。1回目はHGと岡山大学が開催支援を行い、翌年からは独自開催を継続しています。また地方教育局の働きかけにより、さらに他校にも広がり、現在は18校にまで広がっています。

当初から、教育省及び地方教育局

担当官、教員等の人材育成に力を入れてきましたが、現場では体育授業を行うための用具や施設が整っておらず、質の高い体育の授業を行うためにはどうしても環境整備が必要でした。日本の学校、企業、団体、個人等の皆様により、対象校や JICA 青年海外協力隊の派遣されている学校にボールやマット、鉄棒やサッカーゴール等を支援することができ、本当の草の根の活動であると実感しています。マットはHGスタッフが現地で材料を調達し、手作りしたものを各学校に届けています。

また、体育や運動会を実施するうえで、安心・安全な水にすぐにアクセスできるように浄水器の設置も行いました。現在の新型コロナウイルス禍で、子ども達が清潔な水で手洗いやうがいを徹底すること、保健教育の重要性も改めて認識しています。

小学校体育科教育普及支援活動マップ



対象校
小学校: 33校
教員養成校: 13校

対象校のうち
研究指定校
小学校: 29校
教員養成校: 10校

児童数: 31,715人
教員数: 755人

教育省が独自に普及し、カンボジア全体で体育科教育を行っている小学校は100校以上にのぼる

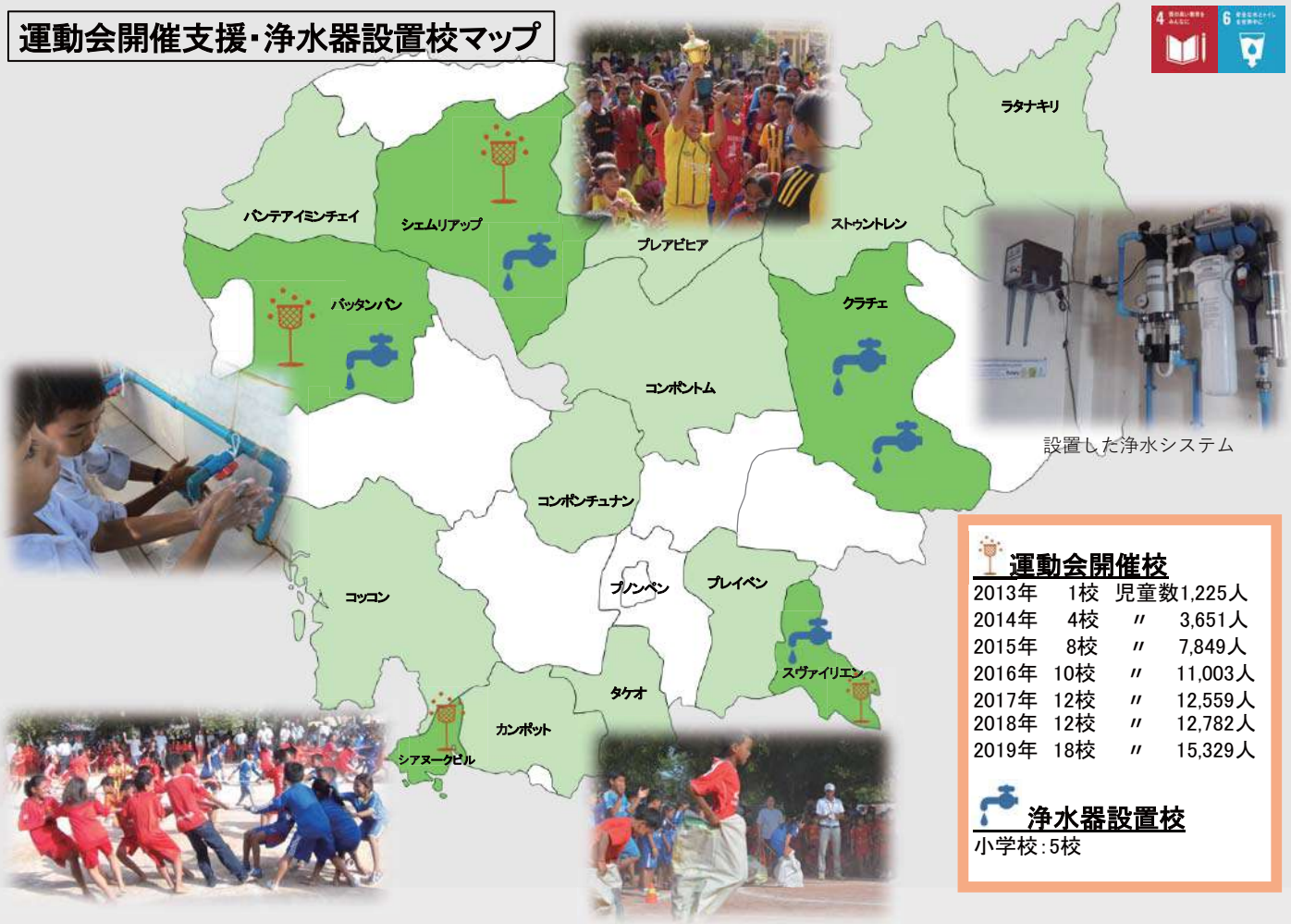
小・中・大学体育施設支援マップ



	鉄棒	34校	19,720人
	雲梯	6校	3,200人
	平均台	2校	600人
	マット	62校	36,300人
	ボール	19校	5,500人
	雨天		
	体育施設	2校	1,587人
	運動場	1校	600人
	プール	1校	253人

*プールは体育大学に設置

運動会開催支援・浄水器設置校マップ



運動会開催校		
2013年	1校	児童数1,225人
2014年	4校	3,651人
2015年	8校	7,849人
2016年	10校	11,003人
2017年	12校	12,559人
2018年	12校	12,782人
2019年	18校	15,329人

浄水器設置校	
小学校	: 5校

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

事業部長 井上 恭子

— 指導員ビー・タイリー、チュート・スライノッチの報告より —

NCCCは今年から社会福祉局の指導のもと、子どもの養育をしています。例えば、18歳以上の子どもの家を訪問し、日常生活や家庭状況などを調べ、子どもが安心して家庭復帰できるかを検討しています。

スライニットは留学から帰国後は、高校2年生に復帰し、勉強を頑張りながら、NCCCのお手伝いをしたり、小さい子達の面倒をみたりしています。NCCCの子ども達もスライニット、スライホーム（現在、留学中）を見習い、日本へ行けることを目標に日本語の学習をしています。

シュムリアップの社会福祉局の連絡会で紹介したところ、日本への留学は大変驚かれるとともに評価していただき、今後の継続も望まれました。

また、3月1日には、メーコン大学でアンコールワット日本語スピーチコンクールがありました。全員見学に行き、来年は大会に参加する予定です。

1月20日、岡山学芸館清秀中学校から生徒さん42人の来訪があり、自己紹介とセンターの案内の後、一緒に畑の草取りをしました。短い時間でしたが、たくさん話しができて、楽しい時間を過ごすことができました。

3月7日から、新型コロナウイルスのため、カンボジアの全ての学校

は休みになりました。毎日、手洗いやアルコール消毒をしっかりとし、外に出かけるときには、マスクをしています。子ども達は学校へ行けなくなったので、NCCCでスタッフや高校生が、勉強を教えています。小学生と中学生は、週に1回学校まで宿題を取りに行き、宿題ができれば学校へ提出に行きます。村で携帯電話をもっている家の子は、オンライン授業を受けています。政府からは、11月の新学期から学校が始まると



クメール正月

聞いています。それぞれの役目を決めて、スケジュールを組んで、規則正しい生活をしています。

4月14日から16日のクメール正月も多くの人が移動することを避けるため、政府が休日の延期をしました。NCCCの子ども達も毎年行っている里帰りを中止し、センターでお正月のお祝いをしました。13日夜8時48分に新年となり、7人姉妹のうちの女神様1人が降りてくるということで、大きい子達はお祈り（お願い）をしました。小さい子達は眠っていたようです。



トウモロコシたくさんとれました



↑ 次はカボチャ ↓



今頑張っているのは、勉強と畑作業です。自分達で育てた野菜は、格別です。トウモロコシは年に1回栽培します。苗を植える前に牛糞を入れて、水やりも毎日欠かさず、大切に育てたおかげで豊作となり、とても甘かったとのこと。市場で買うと、1本1,000リエル（約25円）しますが、毎日食べられ、デザートも買わなくて節約できました。

トウモロコシの後には、カボチャ、レモンの苗を植えました。次の収穫が楽しみです。

コロナに負けない子ども達。勉強の遅れが、とても心配です。ICTを活用した学習環境の整備を急いで進めています。チェイ村は田舎でインターネット接続が困難です。感謝とともに、今の生活を温かく見守っていただくと幸いです。



しっかり手洗い



鍋、洗ってます！



みんなで一緒に勉強中

HG ももたろう 日本語学校

シェムリアップ支所長 村上 貴美子

2019 年末、シェムリアップ事務所は移転致しました。新事務所は大通りに面していて、1階は事務所、2階と3階に教室を配置することができました。旧事務所はプサー（市場）のはずれの裏通りにあり、人目につきにくい状況にあったことを考えると、学校らしくなりました。

1月から心機一転し、シェムリアップの観光業（ホテル勤務、ガイド、土産店勤務等）の日本語需要の減少



HG ももたろう日本語学校

に対応し、日本への技能実習生としての送り出しあるいは留学支援を強化することとしました。

授業形態も従来の60分授業から90分授業、月曜日から金曜日の週5日に変更し、半年で日本語能力N5、1年でN4の学力を身に付けることを目標にしています。その最初の受講生が、7月に日本語能力試験を受験する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け、試験が中止となりました。全員合格を目指して努力していましたが、とても残念です。

さらに、カンボジア全国の学校閉鎖方針により、チェイ小の日本語教室は3月以降、全く授業が行えていません。また、HG ももたろう日本語学校も教室での対面授業からオンライン授業に変更せざるを得ませんでした。教師達は急遽、授業のためのアプリケーションを準備し、PC操作を学びながら、6月よりオンライン授業を試行し、7月から本格的に始めようと、前向きに、積極的に取り組んでいます。



新教室での授業

仕事が無くなり、学習を続けられない生徒達がでているので心配しています。一日も早い終息を願います。

留学日記

ロッチ・スライホーム

皆さん、こんにちは。NCCCのロッチ・スライホームです。私は2019年8月から岡山学芸館高校に1年間の留学をしています。部活は華道部と和太鼓部に入りました。華道部では高さや向きを教してもらい、オープンスクールで飾るお花をきれいに活けることができました。和太鼓部ではお祭り、イベントなどで演奏し、初めはあまり上手にできないのでドキドキしていましたが、だんだん上達してきて楽しんで叩けるようになりました。ハート・オブ・ゴールド（以下、HG）の活動でマラソン大会や20周年記念式へ参加し、お手伝いしました。また、ケアヴィレッジ総社という介護施設でボラ

ンティア活動をさせていただき、洗濯物、掃除、食事などのお手伝いをしました。カンボジアには介護施設はないので、とても勉強になりました。今度は童謡を覚えていって一緒に歌いたいと思います。



ボランティア活動

岡山に留学しているほかの学生達と一緒に、広島の大島神社や平和記念資料館、スキーに行ったりし、交流を深めることができました。そして、この留学中に日本語能力試験N3に合格することができ、次のN2に向けて勉強を頑張っているところです。3月から新型コロナウイルスにより学校が長い期間休みになりました。様々なイベントが中止になり、残念で寂しかったですが、HG事務所や寮で先生のお手伝いをしたりして、寂しさが紛れました。また、宿題も頑張りました。私は留学中、先生方やお友達のおかげで、楽しく過ごすことができます。将来は日本で働いて、家族を助けたいと思っています。いつも応援してください。本当にありがとうございます。これからも頑張りたいと思います。



JICA 短期派遣ボランティア安部健也さん(左)

12月末から3月中旬まで約3か月、JICA 短期派遣ボランティアの東海大学4年生安部健也さんを受入れ。パラ陸上選手の強化のためのトレーニングスケジュール作成をサポートしていただきました。オリンピックスタジアムで毎日練習をしているパラ陸上の選手やコーチと話し合いながら、安部さんの中学・高校時代の陸上部や大学での学生トレーナーとしての経験を活かした技術的なアドバイスを行ってくれました。今後は、ハート・オブ・ゴールド(以下、HG)が選手の練習状況をモニタリングし、引き続きコーチ・選手の強化を行っていきます。

2月10日、11日には、日本福祉大学スポーツ科学部の三井利仁先生(日本パラ陸上連盟理事長)に、車いす陸上選手への直接指導をしていただきました。2017年にHGが実施したスポーツ・フォー・トゥモロー事業でワークショップの講師を務めていただき、2度目の来カン、指導となります。三井先生のゼミ生である島田花さんと鳴海りおさんも、先生の補助としてボランティア参加。先生はビデオカメラをレーサー(競技用車いす)に取り付けたり、自ら自転車で追いかけて、走っている時の選手のフォームを撮影し、その動画を一人一人に見せながら改善点をアドバイスされました。リオパラリンピック(ワイルドカード枠)に出場したヴァン・ヴォン選手には、スタート時のフォームを改善することにより、あと0.3秒縮めることができるというアドバイスされ、先生と一緒にスタートの練習を何度も行いました。2019年11月に行われた世界パラ陸上選手権(ドバイ)予選で、



三井先生(中央)による指導

ヴァン・ヴォン選手は14.57秒で自己ベスト更新。彼にとって0.3秒速くなることは、同大会の世界ランク上位に近づきます。これまでのアドバイスを自分に合わせて取り入れ、トレーニングを続けてほしいと思います。

2月21日にはプノンペンにあるカンボジア日本人材開発センター(CJCC)にて、日本大使館と国際交流基金の共催による「絆フェスティバル」が開催され、HGも“Activity with Para-Athletes”と題して、パラスポーツ体験会を実施しました。車いす陸上選手も加わり、参加したカンボジアの学生にパラ陸上の説明やレーサーの試乗体験をしてもらいました。パラスポーツについて初めて知った子ども達にとっては良い経験となり、また少しでもパラスポーツに興味を持つきっかけとなればうれしく思います。

カンボジアでも新型コロナウイルスによる様々な影響が出ています。3月には、集団でのスポーツ活動禁止やリーグの延期、フィットネスジムの営業禁止等、カンボジア政府よりスポーツに関する通達がありまし



絆フェスティバルでのレーサー試乗体験

た。パラ選手への影響も大きく、オリンピックスタジアムでの日々のトレーニングができなくなりました。

そのような状況でも、選手達は自宅でのトレーニングを積極的に行い、工夫しながら頑張っていて、その様子がFacebookから窺えました。

しかしながら、3月に予定していたフィリピンでの東南アジアパラ競技大会(ASEAN Para Games)も中止となり、大会を目標にトレーニングに励んでいた選手にとって大変残念な結果となりました。

気持ちを新たに次なる目標に向けて、安心してトレーニングができる状況を整えていきたいと考えています。皆様の支えが力となります。ご支援をよろしくお願いいたします。



絆フェスティバル

2019年度国際交流基金 地球市民賞受賞

岡山県初の受賞

ハート・オブ・ゴールドの20余年の活動が評価されました。関わっていただいたすべての皆様と受賞の喜びを分かち合うとともに、心より感謝致します。

※2月4日岡山市内で受賞伝達式が行われました。

＜受賞理由より＞ 支援活動の多くが、支援する側とされる側の立場に格差が生じがちだが、同団体は、対等な交流を目指し、マラソン大会の運営や日本語教室の活動を現地に移譲する等、現地で、自立かつ持続的に活動ができるような枠組みを作っており、また官・学・民を大きく巻き込んで連携し協働を実現している点は、複雑な社会課題の解決方法として注目されるもので、支援活動に関わる全ての団体にとって一つの手本となると考え、本賞を授与する。

事務局からのお知らせ

1. 有森代表、カンボジア初体育大学の名誉教授に就任

現在、ハート・オブ・ゴールドは、体育科教員養成校(NIPES / 国立体育スポーツ研究所)の4年制大学化プロジェクトを進めています。有森代表が、そのカンボジア初となる4年制体育大学の名誉教授を、2020年4月2日付でカンボジア教育・青年・スポーツ省大臣より拝命致しました。

2. 第22回 2019年度総会

6月19日(金)午後4時から、新型コロナウイルス感染予防のためオンライン形式により、総会を開催致しました。事前に詳しい資料をお届けし、会員の皆様には書面

新型コロナウイルス感染予防のため、自粛の日々を様々な不安な気持ちを抱えながらお過ごしのことと思います。なかなか改善の兆しが見えそうで見えない中で暑い夏を迎え、より心身ともに疲れが出始めている方が多いのではないのでしょうか？

ハート・オブ・ゴールドの活動国であるカンボジアでも、大きな影響を受けています。まさに今、社会的役割を持つ組織がますます必要とされ、新たな状況に即した支援活動の必要性も高まると思います。

ハート・オブ・ゴールドも、よりいろいろなアイデアと発想の転換を活動にプラスして、皆さまと共にこの状況を乗り越え、頑張りたいと思います！

ハート・オブ・ゴールド代表理事 **有森 裕子**

表決または委任状によるご承認をいただき、2019年度活動報告と決算、2020年度活動計画と予算、定款の変更のすべての議案が承認可決されましたことをご報告致します。

3. 本部事務局スタッフ

2019年10月より、総務・経理部長に金原美佳が着任。また、2020年3月末に、広報担当の山本雅之が退職。4月1日から5月31日まで、楠本奈々さんがインターンとして活動。

4. 事務局からお願い

* HG 会員募集！ 友人・お知り合いの方をお誘いください。
* 書き損じはがき・未使用の切手・クオカード・商品券などご寄付ください。

* ボランティア・インターン募集！

本部事務局にて、事務補助をしてくださる方。

続ける。続けるために。

続ける。誠実であることを。

日々、課題に向き合い、応える。

続ける。協力し合うことを。

尊重し合い、多様な知恵と技術で成し遂げる。

続ける。イノベーションすることを。

しなやかに発想し、挑戦する。

本当に大切なことが続くために。



ベトナム国 ホイアン市の下水処理施設



来速橋(日本橋)



最終固液分離槽



散水ろ床



高効率固液分離槽

私の“続ける。続けるために。”

続ける。チャレンジすることを。

メタウォーターの技術の世界のスタンダードにするために。

海外ではメタウォーターはまだメジャーではないですが、メタウォーターの技術が世界中で普通に使われる、スタンダードになるようにチャレンジしていきます。そして世界の水環境の改善に貢献したいです。

海外本部 海外営業部 妹尾 真太郎

メタウォーターは、機械技術、電気技術、維持管理ノウハウ、ICTを併せ持つ水・環境企業です。

「続ける。続けるために。」の企業理念のもと、国内外の浄水場や下水処理場の設計・建設から運営・維持管理までトータルソリューションを提供できる強みを生かして、自治体や地域企業とともに、水・環境の循環に寄与し、くらしや産業を支えています。

METAWATER

メタウォーター株式会社

